

第11回豊前市立学校再編成準備協議会 総務部会 会議録(要点)

日 時	令和8年1月23日（木） 18：30～19：20
場 所	豊前市役所3階 第1会議室
出席者	委 員 10名（欠席4名） 事務局 5名
	<p>2. 協議事項</p> <p>(1) 豊前中学校の校歌（歌詞）について</p> <p>○固有名詞の採用の可否について</p> <p>▶主な質疑、意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を見た時にフレーズは最近の子ども達に合っていると感じた。ただ、これだと校歌じゃなくて普通の歌のように感じたので、固有名詞が入った方が愛着もわくと思う。事務局の考えもわかるし、業者の想いもわかる。どちらが良いとかではないが、個人的には少しでも固有名詞がある方が愛着がわいたり、校歌としてわかってもらえると思う。 ・学校の学び舎の状況を思い起こさせる歌詞の方がいい。海があって山があって、今までの校歌はほとんどそういうのを歌っている。固有名詞にはこだわらなくてもいいが、学び舎の状況が端的にわかるような構成が良い。 ・自分の高校の歌詞にも地元の海の固有名詞が入っていて、地元の海と胸を張って言えるし帰りたいと思わせる。豊前には素晴らしい山も川も海もある。県外に巣立っていっても豊前のことを思い出させてくれる。 ・固有名詞を入れることに反対しているわけではないが、出来上がった歌詞がとても素晴らしいこういうスタイルもありなのかという意味で思いもしないものが提示された。この会議の場で中部高校の歌詞をそのまま使おうと採択し全体会で諮った時に、保護者の方たちの、なぜこの令和の時代に古い学校の歌を校歌にしないといけないのか、とのご意見に苦い思い出がある。今までのスタイルというのは蔵春学園の校歌で、春夏秋冬で表し起承転結で美しく完成させてくれているので、新しく作る学校の校歌は新しいスタイルでもいいのでは思っている。提示してもらった歌詞のスタイルを壊さずに固有名詞を入れるならありがたいとも思うが、なくても伝わる良さがこの歌詞には溢れている。今の世代の保護者にもこの歌だったら共感を持って受け入れられると思うし、せっかく業者に依頼して作るなら、本当に新しいものを作り上げていく方がふさわしいと思う。自分でも新しい中学校の校歌を探してみたが、これぐらいの歌詞の長さで2番構成というのは見受けられた。この歌詞が変わっているとかではなく、これがこれからのスタンダードになっていくと感じた。 ・今どきの歌詞がいい。青豊高校の歌詞は今どきだし、たしか固有名詞が入っていなかつたと思う。子どもが野球部なので球場で青豊の校歌が流れると、固有名詞がなくても聞いただけで他所の学校からも青豊の校歌だとわかつてもらっている。固有名詞がなくとも良い歌は良い歌である。 ・子ども達が歌を歌う時も歌詞の意味をよく考えて歌いなさいと指導する。そういう風に見た時に、「海のひかりが～」で豊前海が、「山の静けさが～」で求菩提山の修驗道が浮かんできた。読んでいて豊前の色んな景色が頭の中に浮かんできた。子ども達にもポン

と浮かぶ景色がそれぞれあるように、この歌詞は自分の中にある豊前のことと思い起こさせる歌詞だなと思った。また、固有名詞がないとおっしゃるけども「過去と未来をつなぐ風」というフレーズで、子ども達が旅立っていっても豊前に心を馳せるような感じがする。「海と山のあいだに～」の部分でもそれに山だったり海だったりを思い起させるのを読んでいて感じる。私も築上中部高校の歌詞でもいいと思ったけど、今の方はそうじゃないんだと感じたときに新しいスタイルで、それぞれの胸の中にある景色を思い出すのはいいんじゃないかと思ったし、子ども達が歌いやすい良い歌詞だなと思った。

- ・個人的には固有名詞があった方が感情に訴えかけられる気がするが、今の子ども達が現時点でまた大人になりこの歌詞から想像ができ、モチベーションとか感情とかを感じることができるのであればそれを拒む気はない。
- ・郷土愛というのは校歌に込めるときに子ども達の視点で再定義していく。大きなテーマに子ども達が主役というキーワードがある。新しい教育課程で学習していくことになるが、やはり子ども真ん中社会、子どもが主役、子どもが主体性という時代である。大人から与えられる固定された景色、固有名詞ではなく、これからは正解のない時代に自ら道を切り開いていく。子ども達が歌いながら思いを重ねられる余白を残すことが、主体的対話的で深い学びに資するものになる。固有名詞が大切だという思いも受け止めなければならないし、自分自身も大切にしていきたいと思っているところではあるが、直接的な固有名詞として歌詞に刻むのか、制作者の新たな感性によって、子ども達が情景として受け止って表現するのか。差し支えなければ固有名詞なしでもいいと思う。
- ・作詞作曲は非常に難しい。委託を受けた方にも想いがあつて作っている。合岩小の時はいっさい何も言わず、作詞作曲の方の想いが校歌になればいいのではないかと思った。蔵春学園になっても同じようにした。今回こういう風に意見が出たことは制作者もわかっていると思うが、一任しないと決まらない。普通の歌謡曲でも好きな詞嫌いな詞があるので、事務局からこういう思いで作ってくださいと頼んだのだと思う。それを反映した中で、制作者が固有名詞を入れるか入れないかを判断してもらってもいいと思う。
- ・固有名詞については、豊前市全体になると範囲が広い。山には求菩提山と犬ヶ岳、川は佐井川と岩岳川、海には周防灘と豊前海がある。全部使うとなると同じ構成を繰り返さないといけなくなってしまう。それはそれでいいのかもしれないが、地理を網羅するのはちょっと違う。入れるとしても絞らないといけないが、私が山と思うのは如法寺の山で、海は如法寺の山を登り切ったところから見えるキラキラした豊前の海、川は求菩提の河川プールに子どもを連れていった時の風景であつて、きっとみんな違う。入れるならどっちか選ばないといけないし、選ばれなかつた方の気持ちも考えないといけない。
- ・部会の意見を制作者に伝えつつも、制作者の想いを尊重すると返事するとしていいか？
→そのようにお伝えする。なお、固有名詞については委員からのご意見案もあるが、フレーズを募集した中での選定したい。事務局としては子ども達が自分の想いを歌う新しい校歌というのを意見として出させてもらっているので、制作者と一緒に事務局にお任せいただければと思う。
- ・結局フレーズを追加するのか？

→事務局としてはこのままで、追加はしない。

▶ 承認事項

- ・制作者、事務局に一任する。

○歌詞の長さ（文字数）について

▶ 主な質疑、意見

- ・文字数が多いと言っても、十分歌えるものであればそれでいい。古い人間にとっては、ただ数えてみたら長いなど感じた。今まで小中高と歌ってきたものがそうだったのでそういう考えが抜けない。テンポが速くても今の子ども達が歌えればそれでいい。校歌の場合は、詞を大切にすればどうしても長くなるものである。
- ・歌詞の構成を見た時に、印象的なフレーズを1番2番ともにもってきて、AメロBメロサビと今の子ども達が馴染んでいる曲のスタイルになっているので、子ども達が歌いやすいように構成されているなど感じた。
- ・今の子ども達は難しいリズムとか歌詞を日常的に自然に覚える力をもっている。そういう場面を現場でも見てきている。自分だったら5回10回繰り返さないと覚えないところを、1回でパッと覚える。子どもの可能性はすごいと感じている。可能性を信じて高みを目指していくという精神は今の教育にあってる。この歌詞が長すぎると子ども達が受け止めるとということはない感じる。

▶ 承認事項

- ・制作者提案の歌詞を採用する。

3. 報告事項

なし